

メディアは皇位継承儀式をどのように伝えるか？

朝日新聞社編集委員・宮代栄一
 The Asahi Shimbun Newspaper Senior Staff writer
 PhD. Eiichi MIYASHIRO

1. 皇位継承儀式とは何か

- ・天皇の位を皇嗣（皇位継承順位第1位の皇族）が受け継ぐ儀式のこと
- ・諸国における王位継承儀式と同意
- ・今回は近代天皇制実施後、初めての生前退位
- ・今までの儀式に加え、退位の儀式である「退位礼正殿の儀」が行われるのが特徴

2. 皇位継承儀式の流れ

- ・最初は天皇陛下の退位の礼である「退位礼正殿の儀」→4月30日に実施
- ・中心となるのが、皇太子さまの「即位の礼」
- ・「即位の礼」は5儀式から構成される
 - ・①神器などを引き継ぐ「剣璽等承継の儀」→5月1日に実施
 - ・②天皇として最初のおことばを述べる「即位後朝見の儀」→5月1日に実施
 - ・③即位を国内外に宣言する「即位礼正殿の儀」→10月22日に実施
 - ・④即位を披露するパレード「祝賀御列の儀」→10月22日に実施
 - ・⑤新天皇の弟である秋篠宮さまが皇位継承順位第1位の皇嗣となつたことを示す「立皇嗣の礼」も実施→2020年4月19日を予定
- ・新元号「令和」は5月1日から施行

3. 皇位継承儀式の概要

詳しくは天皇陛下の御退位及び皇太子殿下の御即位に伴う式典委員会のHPを参照

https://www.kantei.go.jp/jp/singi/gishikitou_iinkai/index.html

①退位礼正殿の儀（4月30日、午後5時～おおむね5時10分の見込み）

- ・天皇皇后両陛下お出まし
- ・侍従がそれぞれ剣、璽並びに国璽及び御璽を捧持
- ・皇太子同妃両殿下始め成年の皇族各殿下が供奉
- ・侍従が剣、璽並びに国璽及び御璽を案上に奉安
- ・国民代表の辞（内閣総理大臣）
- ・天皇陛下のおことば
- ・天皇皇后両陛下御退出

②剣璽等承継の儀（5月1日午前10時30分～40分の見込み）

- ・10時30分、天皇陛下お出まし。皇嗣殿下及び成年の親王殿下が供奉
- ・侍従がそれぞれ剣、璽並びに国璽及び御璽を捧持して入室
- ・侍従がそれぞれ剣及び璽を御前の案上に奉安
- ・侍従が国璽及び御璽を御前の案上に奉安
- ・天皇陛下御退出
- ・参列者の範囲は、次のとおり。内閣総理大臣、国務大臣、衆議院議長、衆議院副議長、参議院議長、参議院副議長、最高裁判所長官、最高裁判所判事（長官代行）

→皇族で立ち会うのは成年の男子だけで、女性皇族は排除。前例（明治末期に制定され、現憲法の施行に伴って廃止になった「登極令」）に準拠。平成の代替わりでは、ほとんど議論のないまま援用された。今回もそのまま実施する背景には、女性皇族の参列によって女性・女系天皇の議論が起きるのを避けたいという、政府の思惑があるとの見方も。

③即位後朝見の儀（5月1日午前11時10分～20分の見込み）

- ・11時10分、天皇皇后両陛下お出まし。皇嗣同妃両殿下始め成年の皇族各殿下が供奉
- ・天皇陛下のおことば
- ・国民代表の辞（内閣総理大臣）
- ・天皇皇后両陛下御退出
- ・参列者の範囲は、次のとおり。内閣総理大臣、国務大臣、内閣官房副長官、副大臣及び内閣法制局長官、衆議院の議長、副議長、常任委員長、特別委員長、審査会長及び事務総長並びに参議院の議長、副議長、常任委員長、特別委員長、調査会長、審査会長及び事務総長並びに国立国会図書館長、最高裁判所長官、最高裁判所判事、高等裁判所長官及び最高裁判所事務総長、特記した認証官以外の認証官、都道府県知事の代表及び都道府県議会の代表各2人、市長の代表及び市議会の代表各2人、町村長の代表及び町村議会の代表各2人、その他特に認める者、以上の者の配偶者

③即位礼正殿の儀、饗宴の儀、内閣総理大臣夫妻主催晩餐会

- ・即位礼正殿の儀（10月22日）の参列者数は内外の代表2500名程度
- 前回と同じ基準だと2900名前後に。必要な範囲以外は配偶者を招かないなど、前回並みにするための縮小を実施
- ・饗宴の儀の参列者数は内外の代表2600名程度とし、饗宴の儀は10月22日及び25日に着席形式で、同月29日及び31日立食形式で計4回
- 簡素化を推進。前回は3400名で7回開催。また、昼夜2回をやめて間隔をあけた
- ・内閣総理大臣夫妻主催晩餐会の参列者数は、外国元首・祝賀使節等900名程度とする

④祝賀御列の儀（10月22日）

- ・使用する車は、安全性や環境性能などを考慮し、トヨタの「センチュリー」に。オープンカーに改造して使う
- 「国産車」を採用（前回はロールスロイス）。トヨタ、日産、ホンダ、ロールスロイス、ベンツ、BMWの計6社に打診し、後部座席に乗る新天皇、皇后両陛下の姿が沿道から見えやすく、車列を組むほかの車より大きいといった条件を満たす
- ・平成の祝賀御列の儀（1990年11月）では、ロールスロイス社製のオープンカーを約4千万円で購入したが、2007年に廃車。90年の新天皇のパレードと93年の皇太子ご夫妻の成婚パレードの2回しか使われなかつたため、今回は内閣府の所有に、東京五輪などでも活用の方針。

4. どのような報道が行われるのか

- ・4月30日～5月1日にかけて、新聞は特集紙面、テレビは特別番組を編成
- ・埋もれがちな批判。元号発表時と同じく「奉祝」ムードになるか？
- ・「剣璽等承継の儀」を国事行為として行うことへの批判も
- ・国事行為ではないにも関わらず、27億円もの公費が支出される「大嘗祭」（2019年11月）
- 天皇がその代替わりに際し、五穀豊穣や国の安寧を祈る儀式だが、皇嗣となる秋篠宮殿下から公費支出への批判が出ている